

口腔ケア・嚥下委員会からのお知らせ (9月 食事ポジショニング病棟ラウンド報告)



9月26日の食事ポジショニングラウンド結果

2階病棟 ラウンド件数 (4名)

- 左右に傾いている (4名中2件)
- 身体がベッドの中心に位置していない (4名中1件)
- 両上肢が安定していない (両肘下にクッションの使用がない) (4名中2件)
- 足底部がサポートされていない (4名中3件)
- ズッコケ座りになっている (4名中1件)
- 食台の高さが高い (4名中1件)

3階病棟 ラウンド件数 (2名)

- 顎が上がった状態で食事介助していた (2名中1件)

注：ラウンド時に気になった所！



画像①



画像②

画像①について

- 両肘下をクッションでサポートしていないので左へ傾いています。
- 食台が体幹から離れ過ぎています。

対策

- 両肘下をクッションでサポートして下さい。
- 食台の位置は、体幹から握り拳1個分あける。

画像②について

- 体幹保持ができずに後ろに傾きズッコケ座りになっています。

対策

- 後方に倒れないように背部に掛け布団等で支えが必要です。もしくは、普通車椅子使用も考慮。



画像③



画像③について

- 食台が高すぎます。
- 床にしっかり足底部がついてない。

対策

- 食台の高さは、本人の腋窩と臍部の中間に合わせる。
- 食台の位置は、体幹から握り拳1個分あける。
- 靴を履いて床に足底部をつける。

不良姿勢は誤嚥・窒息に直結します。
安全な姿勢調整を宜しくお願いします。

口腔ケア・嚥下委員会
より



口腔ケア・嚥下委員会からのお知らせ (7月 食事ポジショニング病棟ラウンド報告)



7月18日の食事ポジショニングラウンド結果

2階病棟 ラウンド件数 (3名)

- 端座位保持できず体幹が後ろに倒れていた (3名中1件)
- 身体がベッドの中心に位置していない (3名中1件)
- **両上肢が安定していない** (片側にしかクッションがない) (3名中1件)
- **足底部がサポートされていない** (3名中1件)
- ズッコケ座りになっている (3名中1件)

3階病棟 ラウンド件数 (2名)

- **両上肢が安定していない** (2名中1件)
- **足底部がサポートされていない** (2名中2件)
- ズッコケ座りになっている (2名中1件)

基本的な食事ポジショニング姿勢



両上肢をサポートする理由

- 高齢者は、両上肢を支えながら、姿勢保持するのは難しく姿勢が崩れやすくなります。
- 頸部が筋緊張しやすくなり嚥下運動を妨げます。
- 両肘下をサポートすることで、自己摂取しやすくなります。

両足底をサポートする理由

- 舌の動きが良くなります。
- 舌圧が上がります。
- 嚥下に好影響です。
- 姿勢が崩れにくくなります。

不良姿勢は誤嚥窒息に直結します。
安全な姿勢調整を宜しくお願いします。

口腔ケア・嚥下委員会
より



口腔ケア・嚥下委員会からのお知らせ (6月 食事ポジショニング病棟ラウンド報告)



6月20日の食事ポジショニングラウンド結果

2階病棟 ラウンド件数 (4名)

- 食台の高さが高い (4名中3件)
- 体幹が下方に下がっている (4名中2件)
- 足底部が床についてない (4名中2件)
- 頸部後屈している (4名中1件)

3階病棟 ラウンド件数 (4名)

- 食台の高さが高い (4名中2件)
- 体幹がベッドの中止に位置していない (4名中2件)
- 体幹が左右に傾いている (4名中2件)
- 足底部がクッションで設置していない (4件)



- 食台が高く位置が遠いので、前かがみ姿勢になりやすく、すすり食べの原因になります。
- 足底部をフットペダルに乗せているため前方に骨盤がずれてきています。

- ① 食台の高さはみぞおちの高さ。
- ② 距離は拳1個分が目安です。
- ③ 足底部は床に接地する。



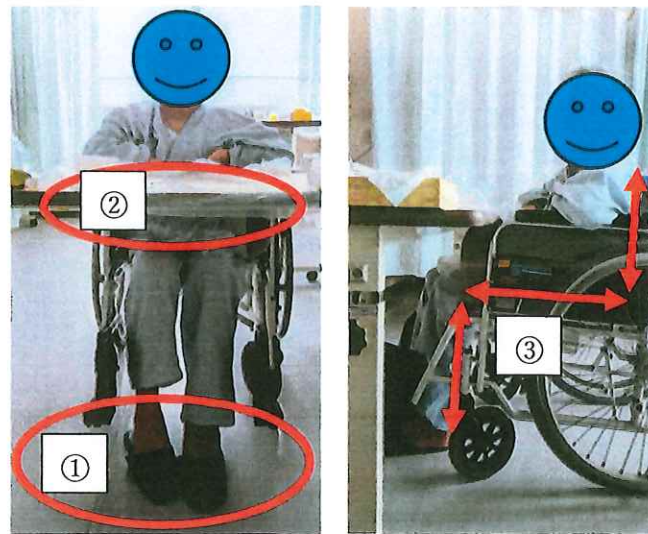
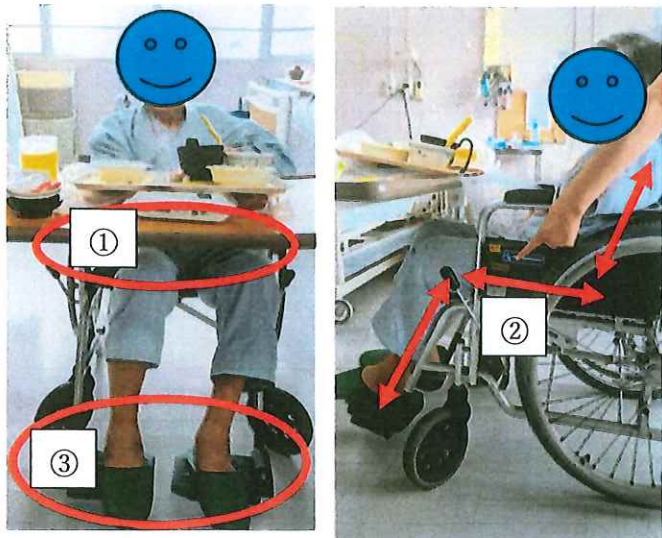
- ベッド上での足底接地ができていません。足底接地していないと、舌圧の低下、嚥下圧の低下、咀嚼能力低下につながります。ベッド上でも足底接地が必要です。
- ④ クッションや布団を使用して足底部を接地することが重要です。

**不良姿勢は誤嚥窒息に直結します。
安全な姿勢調整を宜しくお願いします。**

口腔ケア・嚥下委員会
より



口腔ケア・嚥下委員会からのお知らせ (5月 | 食事ポジショニングラウンド報告)



修正した方がよい点

- ① 両足底部が、フットペダルにのせている。
- ② 食台が高い。
- ③ 90度になっていないため、ずっこけ坐りになっている。

(フットペダルに足はのせない!)

修正した所

- ① 両足底部は床につける。
- ② 食台は、みぞおちの高さに合わせる。
- ③ 肩から臀部、臀部から膝、膝から足底部は90度にする。

(足は必ず床につける。)



原因

- ① マットとベッドの間に隙間があり、ヘッドアップした際に、下方へ下がり、ずっこけ坐りになる。



調整方法

- ① マットとベッドの隙間をうめる。

5月16(金) ラウンド結果

2階病棟 マットとベッドの間に隙間があり、ヘッドアップしたさいに下へずり下がっていた。(1件)

3階病棟 車いすのフットペダルに足をのせており、姿勢がくずれていた(1件)

マットとベッドの間に隙間があり、ヘッドアップしたさいに下へずり下がっていた。(1件)

不良姿勢は誤嚥窒息に直結します！
安全な姿勢調整を宜しくお願いします。

口腔ケア・嚥下委員会
より



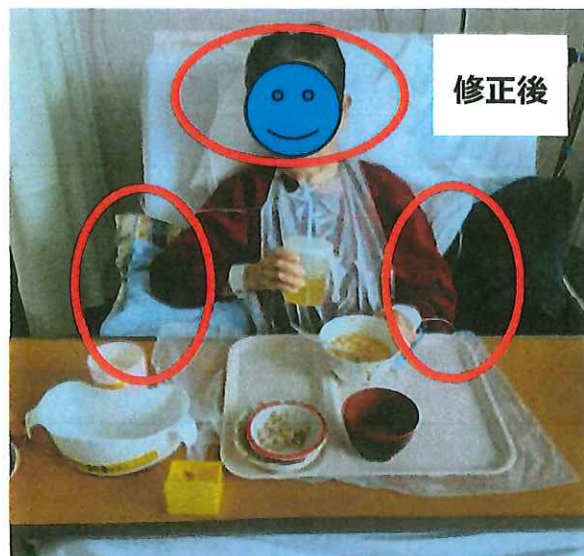
口腔ケア・嚥下委員会からのお知らせ (4月 | 食事ポジショニングラウンド報告)



原因

- ① 両上肢の下にクッションを入れていない。
- ② 頭部にクッションが当たっていない。
- ③ 食台が高すぎる。

(不良姿勢は誤嚥窒息を招きます)



調整方法

- ① 両上肢の下にクッションを入れる。
- ② 頭部にクッションをあて顎を引く。
- ③ 食台を本人のみぞおちの高さにする。

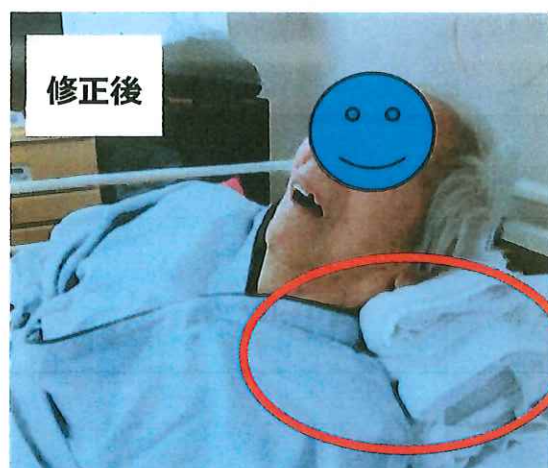
(肘とテーブルの高さを合わせる)



原因

- ① 臥床させると、枕1個だけになっていることが多い (枕1個は不十分です)
- ② 本人が動く場合もある。

(食事の時より臥床時の誤嚥による肺炎が多いと言われています)



調整方法

- ① 臥床時は、枕1個とバスタオルをプラスして前屈位にする。
- ② 横の長さが広いクッションを使用。

(枕とバスタオル、クッションをプラスして調整することが重要)

不良姿勢は誤嚥窒息に直結します！
安全な姿勢調整を宜しくお願いします。

